(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2005-226260
(P2005-226260A)
(43)公開日　平成17年8月25日(2005.8.25)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
E04H 1/02	E04H 1/02		2E025
E04H 1/04	E04H 1/04	B	

審査請求 未請求　請求項の数 5　OL　（全 7 頁）

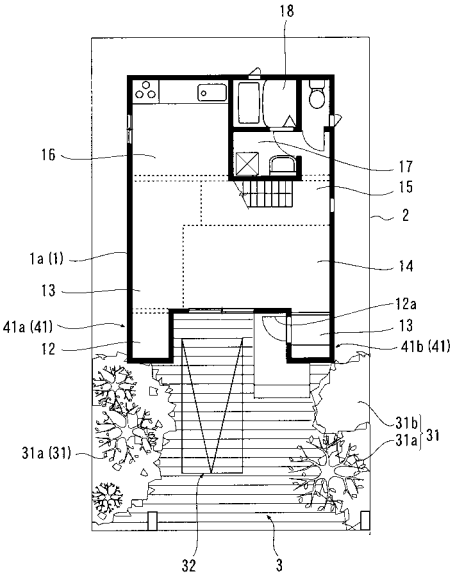
(21)出願番号　特願2004-33833(P2004-33833)
(22)出願日　平成16年2月10日(2004.2.10)

(71)出願人　000114086
ミサワホーム株式会社
東京都杉並区高井戸東２丁目４番５号
(74)代理人　100090033
弁理士　荒船　博司
(72)発明者　前田　康憲
東京都杉並区高井戸東２丁目４番５号　ミサワホーム株式会社内

Fターム(参考)　2E025 AA01　AA26

(54)【発明の名称】住宅及び集合住宅

(57)【要約】
【課題】玄関の位置に拘わらず、間取りの自由度が制約されない住宅及び集合住宅を提供する。
【解決手段】前方に庭３を有する平面視矩形形状の住宅１であって、前面の中央部を凹状に窪ませることで両側にそれぞれ突出部４１を設け、両突出部４１のいずれかに玄関１２を設けた。また、玄関１２の玄関ドア１２ａを両突出部４１の間の空間に面して配置した。さらに、両突出部４１の間で一階１ａより上の階にバルコニーを設けた。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
前方に庭を有する平面視矩形形状の住宅であって、
前面の中央部を凹状に窪ませることで両側にそれぞれ突出部を設け、
前記両突出部のいずれかに玄関を設けたことを特徴とする住宅。
【請求項２】
前記玄関の玄関ドアを前記両突出部の間の空間に面して配置したことを特徴とする請求項１に記載の住宅。
【請求項３】
前記両突出部の間で一階より上の階にバルコニーを設けたことを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の住宅。
【請求項４】
請求項１～請求項３のいずれか一項に記載の住宅をその前面を同方向に向けて横に連続して配置してなることを特徴とする集合住宅。
【請求項５】
隣り合う前記住宅において、それぞれの玄関を隣り合う前記突出部にそれぞれ配置するとともに、それぞれの玄関ドアを前記両突出部の間の空間に面してそれぞれ配置したことを特徴とする請求項４に記載の集合住宅。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、例えば敷地が狭小間口となる場合や狭小間口の住宅を横に連続して配置する場合に用いられる住宅及び集合住宅に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来の住宅としては、例えば玄関、居室、キッチンルーム、洗面所等を備えた間取りを有する平面視矩形形状の住宅が開示されている（例えば、特許文献１参照）。
【特許文献１】特開２００２－９７８０５号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
ところで、上記公報に記載の従来の住宅は、平面視矩形形状に形成されているので、玄関の位置によって間取りの自由度が制約されることになる。つまり、玄関はある程度の広さが必要であるので、この玄関を平面視矩形形状の住宅内に配置すると、玄関によって住宅内の一部が占有され、その間取りの自由度が制約される。
そこで、本発明の課題は、玄関の位置に拘わらず、間取りの自由度が制約されない住宅及び集合住宅を提供することである。
【課題を解決するための手段】
【０００４】
上記課題を解決するため、請求項１に記載の発明は、例えば図１に示すように、前方に庭３を有する平面視矩形形状の住宅１であって、前面の中央部を凹状に窪ませることで両側にそれぞれ突出部４１を設け、両突出部４１のいずれかに玄関１２を設けたことを特徴としている。
【０００５】
請求項１に記載の発明によれば、前面の中央部を凹状に窪ませることで両側に設けられた突出部４１は他の部分から独立した形となる。そして、この両突出部分４１のいずれかに玄関１２を設けたので、この玄関１２は、他の部分から間取り的に独立したものとなる。
したがって、玄関１２の位置に拘わらず、玄関１２以外の間取りの自由度が制約されないこととなる。

また、両突出部４１のうちのいずれかに玄関１２を設けたので、玄関１２の位置や玄関１２の入り方向を容易に変更できる。

さらに、前面の中央部が凹状に窪んでいるので、その分、庭を広げることができ、駐車スペースの一部や駐輪スペースとして利用できる。

【０００６】

ここで、庭３とは、敷地２内の空き地をいい、樹木３１ａ、花壇３１ｂを配した庭園３１、駐車場３２その他の人工的に整えた場所を包含する概念である。

【０００７】

また、請求項２に記載の発明は、例えば図１に示すように、請求項１に記載の住宅１において、玄関１２の玄関ドア１２ａを両突出部４１の間の空間に面して配置したことを特徴としている。

【０００８】

請求項２に記載の発明によれば、玄関ドア１２ａを開いたときでも、内部が丸見えにならず、プライバシーを十分に確保することが可能となる。

【０００９】

さらに、請求項３に記載の発明は、例えば図２に示すように、請求項１又は請求項２に記載の住宅１において、両突出部４１の間で一階１ａより上の階にバルコニー２１ａを設けたことを特徴としている。

【００１０】

請求項３に記載の発明によれば、一階１ａより上の階に設けたバルコニー２１ａが日よけとなり、下階への日差しを和らげることが可能となる。

【００１１】

さらにまた、請求項４に記載の発明は、集合住宅５１であるが、これは、例えば図３に示すように、請求項１～請求項３のいずれか一項に記載の住宅１をその前面を同方向に向けて横に連続して配置してなることを特徴としている。

【００１２】

請求項４に記載の発明によれば、各住宅１の前面の中央部を凹状に窪ませて設けた両突出部４１のいずれかに玄関１２を設けることとしたので、各住宅１において玄関１２の位置に拘わらず、間取りの自由度が制約されないこととなる。

【００１３】

また、請求項５に記載の発明は、例えば図３に示すように、請求項４に記載の集合住宅５１において、隣り合う住宅１において、それぞれの玄関１２を隣り合う突出部４１にそれぞれ配置するとともに、それぞれの玄関ドア１２ａを両突出部４１の間の空間に面してそれぞれ配置したことを特徴としている。

【００１４】

請求項５に記載の発明によれば、隣り合う住宅１において、玄関１２の独立性を確保することが可能となる。

【発明の効果】

【００１５】

本発明によれば、前面の中央部を凹状に窪ませることで設けた両突出部のうちのいずれかに玄関を設けたので、玄関が他の部分から間取り的に独立したものとなり、玄関の位置に拘わらず、間取りの自由度が制約されず、玄関の位置や玄関の入り方向を容易に変更できる。前面の中央部が凹状に窪んでいるので、その分、庭を広げることができ、駐車スペースの一部や駐輪スペースとして利用できる。

また、玄関の玄関ドアを両突出部の間の空間に面して配置すれば、玄関ドアを開いたときでも、内部が丸見えにならない。

さらに、一階より上の階にバルコニーを設ければ、下階への日差しを和らげることが可能となる。

さらにまた、隣り合う住宅において、それぞれの玄関を隣り合う突出部にそれぞれ配置し、それぞれの玄関ドアを両突出部の間の空間に面してそれぞれ配置すれば、玄関の独立

性を確保できる。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１６】
以下、添付図面に基づいて本発明の実施の形態を詳細に説明する。
【００１７】
なお、ここでは、敷地が狭小間口となる場合について説明するが、本発明は、これに限られるものではない。よって、敷地が狭小間口とならない場合でも、本発明の適用が可能である。
【００１８】
◎実施の形態１
図１は本発明の実施の形態１に係る住宅の一階間取りを示す平面図、図２は同住宅の二階間取りを示す平面図である。
【００１９】
この実施の形態１において、住宅１は、図１に示すように、その前面を南方向に向けて狭小間口の敷地２に建築されるものとして構成されている。
【００２０】
そして、この住宅１は、同図に示すように、前方に庭３を有するものとして構成されており、これにより、限られた敷地２の有効活用が図られている。
【００２１】
ここで、庭３は、敷地２内の空き地であるが、同図に示すように、樹木３１ａ、花壇３１ｂを配した庭園３１、駐車場３２を含んで構成される。
【００２２】
また、この住宅１は、図１及び図２に示すように、平面視矩形形状に形成されており、二階建てである。一階１ａは、図１に示すように、南側から奥行き方向に向かって、第一の居室１１、玄関１２、第二の居室１３、第三の居室１４、階段及び廊下１５、キッチンルーム１６、洗面所１７、バスルーム１８を備えた間取りを有している。一方、二階１ｂは、図２に示すように、南側から奥行き方向に向かって、第四の居室２１、階段及び廊下２２、第五の居室２３、第六の居室２４を備えた間取りを有している。
【００２３】
具体的には、この住宅１は、図１及び図２に示すように、前面の中央部を凹状に窪ませており、これにより、両側にそれぞれ左突出部４１ａと右突出部４１ｂとを設け、右突出部４１ｂに玄関１２を設けたものとして構成されている。
【００２４】
すなわち、このような住宅１によれば、前面の中央部を凹状に窪ませて設けた両突出部４１のうちの右突出部４１ｂに玄関１２を設けているので、玄関１２の位置に拘わらず、玄関１２以外の間取りの自由度が制約されないこととなっている。
また、両突出部４１のうちのいずれかに玄関１２を設けたので、玄関１２の位置や玄関１２の入り方向を容易に変更できることとなっている。
さらに、前面の中央部が凹状に窪んでいるので、その分、庭を広げることができ、駐車スペースの一部や駐輪スペースとして利用できる。
【００２５】
ここで、玄関１２の玄関ドア１２ａは、図１に示すように、両突出部４１の間の空間に面して配置されている。これにより、玄関ドア１２ａを開いたときでも、内部が丸見えにならず、その結果、プライバシーを十分に確保できることとなっている。
【００２６】
また、両突出部４１の間で一階１ａより上の階には、図２に示すように、バルコニー２１ａを設けている。これにより、一階１ａより上の階に設けたバルコニー２１ａが日よけとなり、その結果、下階への日差しを和らげることが可能となっている。
【００２７】
すなわち、この実施の形態１に係る住宅１によれば、前面の中央部を凹状に窪ませて設

けた両突出部４１のいずれかに玄関１２を設けることとしているので、玄関１２の位置に拘わらず、間取りの自由度が制約されないこととなっている。

【００２８】

したがって、この実施の形態１に係る住宅１によれば、居住者が満足する間取りを設定でき、プレハブリケーションなどの生産の合理化を図ることもできる。

【００２９】

◎実施の形態２

図３は本発明の実施の形態２に係る集合住宅の一階間取りを示す平面図、図４は同集合住宅の二階間取りを示す平面図である。なお、実施の形態１と同様な構成要素については、実施の形態１と同様な符号を付してここではその詳細な説明を省略する。

【００３０】

この実施の形態２に係る集合住宅５１は、図３及び図４に示すように、実施の形態１とほぼ同様な狭小間口の住宅１をその前面を南方向に向けて横に連続して配置して建築されるものとして構成されている。

【００３１】

そして、各住宅１は、図示しないが、前方に庭を専有するものとして構成されており、これにより、限られた敷地の有効活用が図られている。

【００３２】

すなわち、各住宅１は、図３及び図４に示すように、それぞれ平面視矩形形状に形成されており、二階建てである。一階１ａは、図３に示すように、南側から奥行き方向に向かって、第一の居室１１、玄関１２、第二の居室１３、第三の居室１４、階段及び廊下１５、キッチンルーム１６、洗面所１７、バスルーム１８を備えた間取りを有している。一方、二階１ｂは、図４に示すように、南側から奥行き方向に向かって、第四の居室２１、階段及び廊下２２、第五の居室２３、第六の居室２４を備えた間取りを有している。

【００３３】

ここで、図３及び図４に示すように、隣り合う住宅１において、それぞれの玄関１２を隣り合う突出部４１にそれぞれ配置するとともに、それぞれの玄関ドア１２ａを両突出部４１の間の空間に面してそれぞれ配置したものとして構成されている。これにより、隣り合う住宅１において、玄関１２の独立性が確保されることとなっている。

【００３４】

すなわち、この実施の形態２に係る集合住宅５１によれば、実施の形態１と同様、各住宅１の前面の中央部を凹状に窪ませて設けた両突出部４１のいずれかに玄関１２を設けることとしているので、各住宅１において玄関１２の位置に拘わらず、間取りの自由度が制約されないこととなっている。

【００３５】

したがって、この実施の形態２に係る集合住宅５１によれば、居住者が満足する間取りを設定でき、プレハブリケーションなどの生産の合理化を図ることもできる。

【図面の簡単な説明】

【００３６】

【図１】本発明の実施の形態１に係る住宅の一階間取りを示す平面図である。

【図２】本発明の実施の形態１に係る住宅の二階間取りを示す平面図である。

【図３】本発明の実施の形態２に係る集合住宅の一階間取りを示す平面図である。

【図４】本発明の実施の形態２に係る集合住宅の二階間取りを示す平面図である。

【符号の説明】

【００３７】

１ 住宅

１ａ 一階

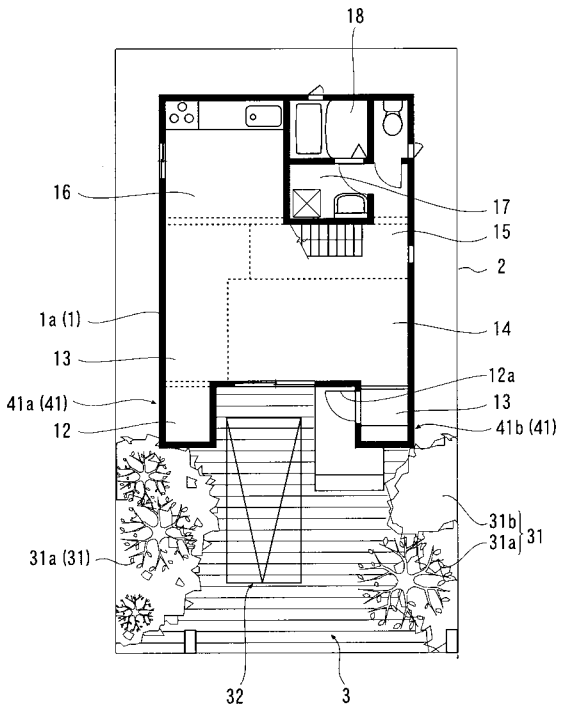
１ｂ 二階

２ 敷地

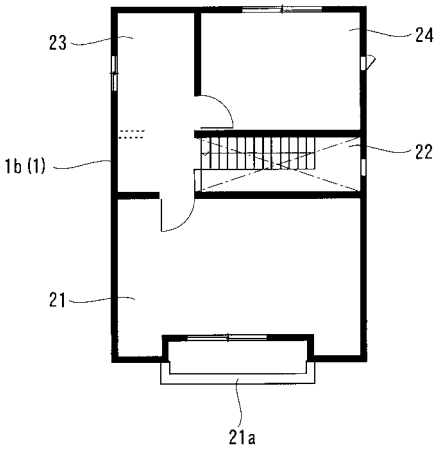
３ 庭

１２　玄関
１２ａ　玄関ドア
２１ａ　バルコニー
５１　集合住宅

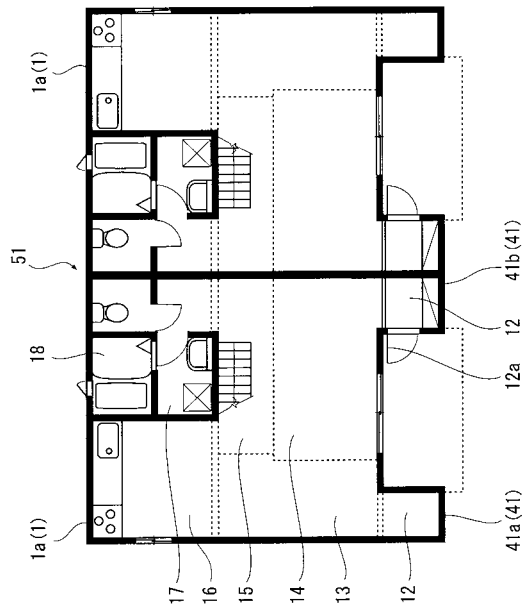
【図１】



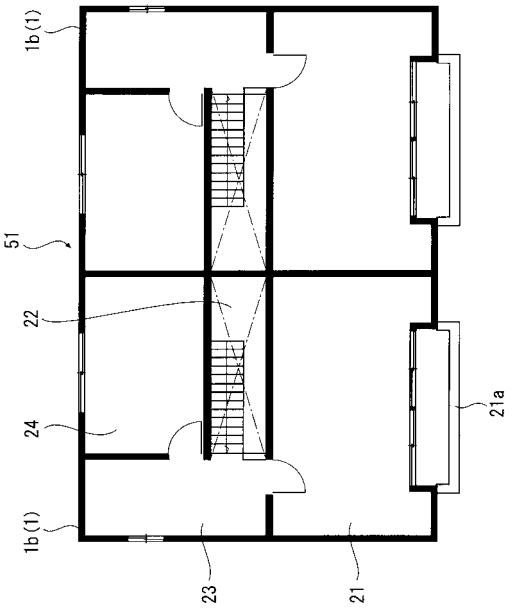
【図２】



【図３】


1a(1)
51
18
1a(1)
41b(41)
12
12a
41a(41)
17
16
15
14
13
12

【図４】


1b(1)
51
22
24
1b(1)
21a
23
21